

東京オリンピック大会の酷暑対策で最大の課題は、マラソンや競歩ではなくゴルフ競技の会場問題です。

本日は、この極めて深刻な問題を海外メディアの皆さんに訴えたいと思い、この会見を開かせて頂きました。

私は酷暑対策として、東京五輪ゴルフ競技会場を霞ヶ関カンツリー倶楽部から他会場へ早急に変更することを強く求めています。

10月16日に国際オリンピック委員会（IOC）は、来年に控える東京五輪のマラソンと競歩の競技会場を酷暑対策のため東京から札幌に変更する計画を発表しました。最終的には10月30日から東京で開催された東京五輪調整委員会で議論され、IOCのトーマス・バッハ会長は、IOC理事会と大会組織委員会の間では合意したと発表しました。こうして、マラソンと競歩競技は北海道に移転しました。

私は、2014年から現在に至るまで、参議院の予算委員会や文教科学委員会での質疑や、トーマス・バッハ会長への書簡を通じ、東京五輪ゴルフ会場の酷暑問題などを提起してきました。具体的には、東京五輪のゴルフ会場に決定している「霞ヶ関カンツリー倶楽部（以下『霞ヶ関』）」を当初予定していた東京都が所有する「若洲ゴルフリンクス（以下『若洲』）」へ見直すことを訴えて参りました。

しかしながら、日本のメディアはこの問題を見向きがちなようです。確かではありませんが、日本の大手メディアはIOCから圧力がかかっているのではないのでしょうか。なぜなら、彼らは東京五輪のスポンサーだからです。

この間、問題の一つとして指摘した五輪憲章に反する女性差別問題こそ改善されたものの、最大の課題である「酷暑対策」やその他にも「運営費用」、「五輪後の利用（レガシー）」、「アクセス」、「宿泊施設」といった問題は置き去りにされたままです。

とりわけ「酷暑対策」は極めて深刻な問題です。2017年に三上岳彦名誉教授率いる首都大学東京の研究チームは、霞ヶ関が所在する埼玉県川越市が日本一暑いとの観測結果を英気象学会誌に発表しました。実際に、私が五輪のテストイベントとして今年8月に開催された日本ジュニアゴルフ選手権に足を運び気温を計測したところ、直射日光の下で温度計は42℃を示しました。

また、環境省が2017年から行っている「オリンピック・パラリンピック暑熱環境測定事業」のデータによると、霞ヶ関での五輪ゴルフ競技の開催期間と同期間（男子7月30日～8月2日、女子8月5日～8日）を3年間で平均したところ、暑さ指数（WBGT）で運動が原則中止とされる31℃を超える31.7℃にも達していることが明らかになりました。

ゴルフ競技は、練習やスタート時間を含めると、1ラウンドに5時間以上かかります。それに加え事前の練習に1時間、各チームがスタートするだけでも更に1時間以上費やすのです。想定では7：30～15：30にプレーが行われることになっている長丁場です。さらにゴルフ場は、入場人数が限られるクラブハウス以外に逃げ場のない閉ざされた空間です。仮設でテントなどを用意する準備をしているようですが、酷暑からの逃れるという点で十分とは到底言えず、観客やボランティア、スタッフなどが長時間にわたり炎天下にさらされることとなります。これが、男女それぞれ4日間続きます。2時間30分程度で、それも一回だけで競技が終了する上、都市部ならビルや駅など避難する場所がたくさんあるマラソンや競歩とは違い、ゴルフ場ではそれができない。現場にいるあらゆる人間の健康に酷暑が与える危険性はマラソンや競歩の比ではありません。

このような状況を前にして霞ヶ関でゴルフ競技を強行できるのでしょうか？

一昨年の夏にはあるコンペの参加者のうち5%が熱中症で倒れたことが報道されています。想定される2万5000人の観客動員が実現した場合には単純計算で1250人もが熱中症で倒れることとなります。競技運営に関わる多くのボラ

ンディアへの影響も無視できません。収容する救急車も病院も足りず、熱中症患者が続出し、死者が出る可能性すら否定できません。

7月下旬から8月上旬という日本の夏でも最も暑い時期に、日本の中で最も暑い場所で、屋外スポーツを強行することは、まさに狂気の沙汰としかいいようがありません。実際に、霞ヶ関のメンバーでもある東京都病院協会会長の医師や著名な気象予報士もその危険性を訴えています。アスリート・ファースト、ギャラリー・ファーストに逆行し、選手の出場辞退や途中棄権につながる可能性があります。

選手や観客、ボランティアの安全を考えるのであれば、ゴルフ競技こそ海沿いで4℃ほど気温が低い「若洲ゴルフリンクス」や、避暑地である軽井沢や箱根、北海道などのゴルフ場へ変更することを決断すべきです。こうしたリゾート地域には、オリンピックゴルフ競技会場にふさわしいチャンピオンシップコースがいくつもあります。

今年中に決断すれば、まだ間に合います。東京オリンピックを成功に導くため、IOCと組織委員会のご英断を切に要請致します。

以上が、私が取り組んで来た問題の概要です。

ご清聴ありがとうございました。

以 上